



4月2日(木) 世界自閉症啓発デー

4/3 新聞記事

← 中日新聞朝刊



**青い風船と看板
自閉症デー飾る**
豊橋・さわらびピア
世界自閉症啓発デーの2日、シンボルカラーの青い風船と青字のPR看板が、豊橋市障害者福祉会館さくらピアに飾られた。写真。自閉症の理解促進と支援のため、百三十カ国以上の国と地域で取り組むキャンペーン。

さわらびピアは今年初めて風船二百個の飾りを作り、来年は市内のほかの施設にも広げる。

本田栄子事務局長は「自閉症は症状が複雑、多様で教育や就労面でも理解されにくい。目を向けるきっかけにして」と話した。豊橋駅前では、発達障害の子を持つ親でつくる「ママの会」が通行人にポケットナイフを配って、理解を呼び掛けた。

→ 東愛知新聞



自閉症の友だちを応援

世界啓発デー 水色の風船でPR

4月2日は国連が「世界自閉症啓発デー」を制定した。同日、啓発デーのシンボルカラー「水色」の風船300個を飾り、懸垂幕を掲げてPRした。

同日は世界各地で自閉症の理解促進に向けた取り組みが行われ、その一環で世界中の思いを一つに」と建物やランドマーク等を青色にライトアップする「ライト・イット・アップ・ブルー」を展開。同館を利用する、自閉症の子を持つ親から「啓発に協力したい」との声があったことや豊橋市立くすのき支援学校開校などを機に「自閉症のお友達を応援しよう」と、今回初めて自主活動としてディスプレイを行った。

2日前から同館利用者らが準備に協力した。同日は世界各地で自閉症の理解促進に向けた取り組みが行われ、その一環で世界中の思いを一つに」と建物やランドマーク等を青色にライトアップする「ライト・イット・アップ・ブルー」を展開。同館を利用する、自閉症の子を持つ親から「啓発に協力したい」との声があったことや豊橋市立くすのき支援学校開校などを機に「自閉症のお友達を応援しよう」と、今回初めて自主活動としてディスプレイを行った。

力、当日朝に飾り付けた。「少しでも話題なり、自閉症理解のきっかけになれば」と本田栄子・同館事務局長。来館者や隣の桜ヶ丘公園を訪れた市民らは、風船が揺れるさまを眺め、掲げられた「世界自閉症啓発デー」の文字に目をやっていった。(8面参照) (田中博子)

自閉症 正しい理解広まれ
偏見なき社会へ願ひ込め青い風船300個
豊橋市障害者福祉会
自閉症への理解促進啓発デーの2日、豊橋市障害者福祉会館さくらピア(東新町)では、青い風船約300個を飾り付けて、自閉症や発達障害に対する偏見のない社会を願った。同館の本田栄子事務局長は「自閉症について考えてもらうきっかけになれば」と話す。国連は2007年に4月2日を啓発デーと定め、世界各国で自閉症への理解を求め取り組みが行われている。国内では、テレビ塔やビルなどを青い光で照らす「ライト・イット・アップ・ブルー」が全国で展開されている。自閉症や発達障害のある市民などが利用する同館は、症状に対する理解を深めようと、職員が手作りした青い風船300個を設置した。同館は、身体や知的障害についての相談を受け付ける「ピアカウンセラー」が活動中。啓発デーの前に、発達障害の相談を受け取るカウンセラーが風船を飾る取り組みを提案し、初めて実施した。市に今月から開校する「市立くすのき特別支援学校」を後押しする気持ちも込めた。



風船を建物に飾り付けて理解を促進 (豊橋・さくらピアで)

自閉症は外見上から症状が理解しづらく、周囲から誤解を受けやすい。本田事務局長は「各個人を見て正しく理解する必要がある。来年度以降は、さくらピア以外の施設でも取り組むの輪が広がってほしい」と思いを語った。(佐々木雄紫)

← 東日新聞